

平成30年度第4回下野市自殺対策計画策定委員会議事録

開催日時：平成31年3月14日（木）午後3時30分から5時00分

開催会場：下野市役所 304会議室

出席委員：永井委員長、佐山副委員長、佐藤委員、滝澤委員、中川委員、上野委員、森田委員、毛呂委員、小林委員、杉山委員、坪山委員、福留委員（代理杉山委員）

事務局：所健康増進課長

健康増進課成人保健グループ職員（間板、横田、笠野、菊地）

健康増進課母子保健グループ職員（生井）

健康増進課 佐藤臨床心理士

1. 開 会（事務局）

2. 委員長あいさつ（永井委員長）

3. 議 事

（1）パブリックコメント結果報告及び最終計画案について・・・・・・・・資料1

（事務局より資料1に基づき説明）

（委員長より）

次の議事（2）の概要版の検討をしつつ最終計画案も同様に修正していく方向で話し合いたい

（2）いのち支える下野市自殺対策計画（案）概要版について・・・・・・・・資料2

（事務局により資料2に基づき説明）

（委員長より）

計画の数値目標について、健康しもつけ21プランを参照して設定しているが、自殺者数0人とするのは非現実的で、計画を推進する立場の方の士気を損ねてしまうのでは。PDCAサイクルとして評価することを考えるとゼロではなく、半減等に検討するのはどうか？

（委員より）

本来はゼロであるが、どうしてもできない状況のため、「0に近づける」という表現はどうか。

（委員より）

交通死亡事故は0人に設定している。実現不可能ではあるがそれでもゼロを設定している。健康しもつけ21プランに合わせてゼロ設定でよいのでは。

（委員より）

ゼロで良いのでは。市民から見た時に自殺を容認している市となってしまうのではないか。

（事務局より）

他市町の数値目標設定の状況として、人口規模の少ない市町は0人であるが、人口規模の大きい市は、半減等の具体的な数値を設定している。ゼロの設定は現実的に無理な部分もあるが、21プランとの整合性も考えてゼロ設定で計画推進させていただきたい。

（委員より）

このままの表記で承認。

（事務局より）

ゲートキーパー養成講座においては、「養成」と入ってしまうと3～4回コースで勉強してきて

プロフェッショナルな形での講座になってしまい、計画の趣旨にそぐわなくなってしまうため、表現がこれで良いかこの場で審議してほしい。

(委員長より)

学校の分野では、虐待やいじめなどの問題もあり、より視点を広く総合的な内容を盛り込んだ「研修」にした方がよいのでは。

(副委員長より)

免許更新は10年ごとに設けており、免許更新のなかでは自分で興味のある分野ゲートキーパーなども大学で受けてもらう形式になっている。そのため教育委員会と連携してこのような講座を実施していただけるのはありがたい。

(委員より)

「養成」の意味は、程度の知識を学ぶといった意味合いなので、養成講座という表記で良いのでは。

(委員長より)

養成講座のこのままの表記で承認。

(委員長より)

資料1-2 P38 市では、講話によるストレスとの上手な付き合い方を学ぶ「こころの健康教室」を中学2年生の生徒全員を対象に実施します。と記載あるが今後計画策定期間の5年間の間ずっと講話ではなくグループワーク等を取り入れた内容も検討してほしいため、「講話」の表記を削除してもよいのでは。

(事務局より)

「講話」の表記を削除させていただきたい。

(委員長より)

資料1-2 P35 「自死」、「自死遺族」の標記の仕方について話が出ていたため調べたところ、丁寧な表現をするため全国自死遺族総合支援センターよりガイドラインがまとめられていたので資料を提供します。(委員長提供資料)

- ・自殺・・・行為の表現
- ・自死・・・遺族や遺児に関する表現

本計画の表記の仕方についてガイドラインを参考にしてはどうか。デリケートな問題の為、こうではいけないといったことは無いが、計画書において説明するうえでも検討してほしい。

(委員会より)

ガイドラインを参考にすることでこのままの表記で了承。

(委員より)

元号が変わるため、表記方法を検討してほしい。

(事務局より)

今回の計画は3月末に策定されるため、現段階の表記方法は、このままとしたい。

(委員長より)

配布方法はどのようにするのか。

(事務局より)

ホームページに計画を掲載予定。これから自治会長会議等の場で配布を検討していく。

(3) (仮称) 下野市地域自殺対策ネットワーク協議会設置要綱について・・・資料3

(事務局より資料3に基づき説明)

(委員長より)

委員の選出方法は、人ではなく策定員会の関係機関内での選出となる。ぜひこの人を出してほしいなど例外もあるが、無理のない範囲でご協力をいただきたい。

(事務局より)

原則所属で選出していただきたい。所属の中で、臨機応変に選出いただきたい。

(委員より)

委員の定数 15 名以内となっているが増やすことは可能か。
計画推進のネットワークづくりのため、精神科医といった専門分野の委員の参加など有意義
なのは、御検討願いたい。

(事務局より)

精神科医などの専門職の選出については、定数は 15 名以上でも可能であるが、協議会の構
成や予算的に厳しい。オブザーバーという形で必要に応じてお願いしたい。下野市で実施す
る「こころの健康相談」の場で相談者が居ないときにアドバイスをいただくことは可能。

(委員長より)

委員の選出については、ワーキンググループといった形で検討することも可能。それぞれの
組織の実情もあるため、臨機応変に選出願いたい。

(委員より)

SOS の出し方について、小学生は自分で「こころつなぐシート」を書くことはできない
ため、現実的には親御さんや先生方に分かってもらえるような対策を検討してほしい。

また、同性愛者 (LGBT) について自殺者数が多いといった傾向を聞いたため、その方々
への支援も検討してほしい。

(事務局により)

小学生への支援として「思春期教室」において命の大切さについて教育の推進を行ってい
るが、「こころつなぐシート」の活用についても今後検討していきたい。

4. その他

(事務局より説明)

今後のスケジュール第 1 回地域自殺対策ネットワーク協議会日程について

2019 年 12 月 5 日 (木)、12 日 (木)、19 日 (木) の日程で検討願いたい。

議題は「平成 30 年度における本市の自殺者数動向について」「こころつなぐシート」の活
用状況について協議予定。

本計画の策定結果については 3 月末に市長に報告予定。

5. 閉 会

計画書訂正箇所

P38 ★SOS の出し方に関する教育の推進 (新規・継続)

●市では「講話」によるストレスとの上手な付き合い方などを学ぶ「こころの健康教室」を
中学 2 年生の生徒全員を対象に実施します。(継続)

→「講話」による を削除